

中国のアゼルバイジャンへの進出動向

中国の対外経済進出において注目される「一帯一路」構想ですが、資金的余裕のあるアゼルバイジャンには優遇融資付きプロジェクトという中国の常套手段が機能しないこと、欧州等各国企業との競争が激しいこともあり、これまでに大規模な「一帯一路」案件は実現していません。

しかしながら、再生可能エネルギー分野では、当地中国大使が「グリーン版一帯一路」構想をメディアへ披露したように、中国企業の積極的なアゼルバイジャン進出の動きが見られます。例えば、アゼルバイジャンにおける2つの再エネプロジェクト(Masdar 太陽光発電所、ACWA Power 風力発電所)に、关于隆基(LONGi Green Energy Technology)が太陽光パネル、金風科技(Goldwind Science & Technology)が風力タービンを供給する見通しです。また、中国能源建設(China Energy Engineering Corporation)の子会社である中国葛洲巴集团公司(China Gezhouba Group)が、エネルギー省と 2GW 規模の再エネ発電事業実施に向けた覚書を締結しました。

再エネ分野以外でも、東方電気集団(DongFang Electric Corporation)がアゼルバイジャン火力発電所(ミンゲチェビル市)増設に携わるほか、ファーウェイ(Huawei)が通信インフラ整備、解放地域スマートビレッジ建設へ参画、力帆実業(Lifan Industry)がナヒチバンで乗用車等のノックダウン生産を行うなど、様々な分野で中国企業のプレゼンスが見られます。

貿易面では中国の対アゼルバイジャン輸出が急速に伸長しています(2015 年約 5 億ドル→2022 年 20 億ドル強)。スマートフォン(輸出総額の約10%)、パソコン、タブレット等電気・電子機器が主要品目です。2022 年からは上海凱宸会展(Shanghai Kanchen Exhibition)がバクーで中国製品展示会(China Created Fair Azerbaijan)を開催しており、本年の展示会(9 月28~30 日)へは中国企業 120 社が出展予定とのことです。

(以上)